

東京天使病院
データの公開に関する基本方針
(データポリシー)

令和4年11月1日 作成

1. 目的

東京天使病院において、研究活動を通して取得・作成したデータの公開について、その基本方針を定める。

東京天使病院は、睡眠時無呼吸症候群、リハビリテーションなどに重点を置き調査、研究及び技術の開発並びにこれらの業務に密接に関連する医療の提供、技術者の研修等を行う。その研究活動を通じて取得されるデータが、幅広く利活用されることで、我が国全体の保健・医療・福祉の向上および医学研究のさらなる発展に資することを目的とする。

2. 対象となる研究データと公開範囲

本基本方針における研究データとは、東京天使病院において、その研究活動を通じて取得・作成したデータ、そのメタデータ、および研究成果として公開したデータとする。研究データは、特段の定めがある場合を除き、可能な限り社会に公開する。個人情報保護や知的財産権保護の観点、また公開により国民の利益に反する恐れのある情報等、公開は適当でないと判断するデータについては、公開の対象外とする。

3. データの管理・保存・運用

東京天使病院および研究者は、研究データの適切な管理・保存に努める。特に、法的小および倫理的要件に則り、公開データの管理および利用を促進するための運用をすすめる。

4. データの帰属

東京天使病院の研究データは、別に定める場合を除き、東京天使病院に帰属する。データの取得・作成が、他の研究機関等と共同で行われた場合の帰属については、それら研究機関等との取り決めによる。

5. データの公開期間と利用条件

研究データは、研究者の論文投稿前の期間、研究者の権利や出版社等との契約に基づく場合などの公開猶予期間を過ぎた場合、速やかに研究データを公開するものとする。また、公開後も臨床研究部長が公開を適当でないと判断した場合には、研究データの公開を打ち切る。公開された研究データを利用した研究結果等を論文や報告書等に掲載する場合は、東京天使病院が公開した研究データを利用した旨を明記すること。研究データは原則無償で公開されるが、その種類および利用目的等により、有償とする場合がある。

6.免責

東京天使病院は、公開された研究データの利用によって生じる一切の損害についての責任を負わない。

7.その他

この基本方針は、必要に応じて随時見直しをおこない改訂する。